

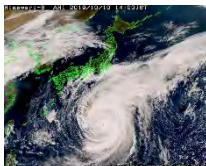
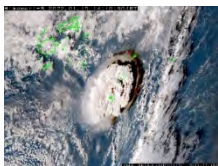
●国土交通省では、静止気象衛星から得られた衛星データを活用した防災情報の提供のほか、海洋監視能力の強化、災害時における被災状況の把握等、国土交通分野への衛星データの利活用に向けた取り組みを推進

災害対策・国土強靱化や地球規模課題の解決への貢献

＜静止気象衛星の運用＞

- 静止気象衛星ひまわり8号及び9号を運用し、国民の安心・安全に欠かせない防災情報を提供
- また、後継衛星について、線状降水帯等の監視のため高密度観測など最新の技術を取り入れるべく調査等を加速

[ひまわりによる観測事例]

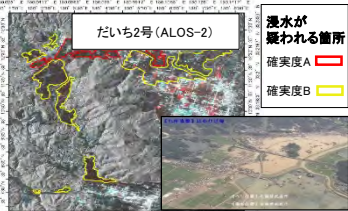


フンガ・トンガ・フンガ・ハアパイ火山の大規模噴火の様子（2022年1月15日）

令和元年東日本台風（台風第19号）（2019年10月10日）

＜被災時における被災状況の把握＞

- 衛星データ等の技術の導入を通じ、公共施設等の被災状況や浸水域の速やかな把握を実現し、頻発化・激甚化する災害への対応力を強化



リモートセンシング技術による軽石の漂着状況の把握

被災時における浸水状況の把握の取組例

＜第4回アジア・太平洋水サミット＞

- 2022年4月23、24日に熊本市で開催
- 同サミット日本開催を契機として、我が国の科学技術貢献、インフラ海外展開による、水問題解決やSDGs目標達成を通じて、アジア太平洋地域の「質の高い成長」を後押し
- 具体的には、衛星観測による降雨予測等に関する我が国の技術を活用した国際貢献等について、関係省庁と調整中

第1回アジア・太平洋水サミット（2007年大分県別府市）

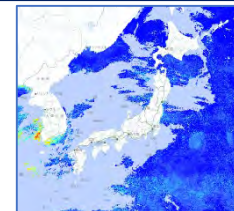


福田総理大臣（当時） 皇太子殿下（当時）

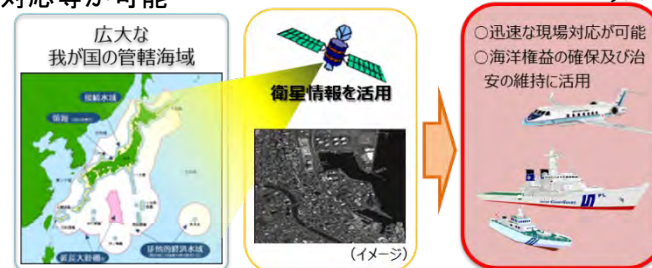
宇宙安全保障の確保

＜海洋状況把握＞

- 気象衛星等から得られる海洋情報を集約・共有・提供する、「海洋状況表示システム」（海しる）を機能強化
- 全国の広大な海域の様々な脅威に対応するため、衛星情報の取得・活用により、監視能力を強化し、迅速な現場対応等が可能



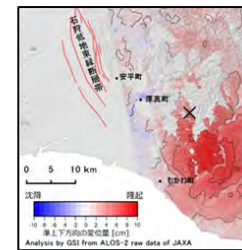
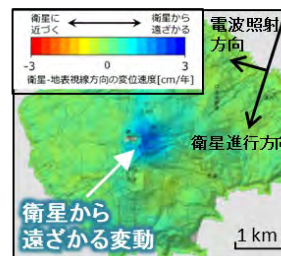
「海しる」（気象衛星によるクロロフィル-a濃度）



宇宙を推進力とする経済成長とイノベーションの実現

＜人工衛星による地殻変動等の監視＞

- 測量分野において、地形や位置等を把握することを目的として、人工衛星で得られた合成開口レーダー（SAR）のデータを解析し、全国の地殻変動等を面的に監視。 [合成開口レーダーを用いた分析事例]



口永良部島における活火山の微小な動きの検出（2015年～2021年の解析結果）

解析：国土院 原初データ所有：JAXA
平成30年北海道胆振東部地震に伴う地面の動きを面的に把握